

# 湘南慶育病院

症 例 概 要 氏名：70代男性

病名：左下肢切断（大腿部）

## 【経過】

3月初旬：左足の血色不良、疼痛の訴えがあり急性期病院を受診。コレステリン閉塞の診断で入院となった。

4月初旬：左大動脈、後脛骨動脈に対して末梢血管療法施行。静脈系にも血栓が認められ血行再建は不可と判断された。

4月末：左下肢切断術実施

6月末：当院の回復期リハビリテーション病棟に入棟

## 【ニーズ】

義足を使用して日常生活が自立したい。妻とドライブなどの外出ができるようになりたい。

## 内 容

---

### 【症例紹介】

入院時の状態として、左下肢切断によるバランス能力の低下と、全身の筋力低下により基本動作と日常生活動作に重度介助が必要な状態であった。さらに、本症例は、切断肢の断端管理の理解が不十分であることに加えて、既往の糖尿病の理解や服薬管理の認識が乏しかった。また、症例はこれまでに糖尿病に対する生活指導や服薬指導を受けた経験が無かった。

### 【チームアプローチ】

本症例は、断端管理の方法や必要性の理解が不十分であった。そのため、看護師による断端管理に関する教育を行った。具体的な内容としては、弾性包帯の巻き方の習得、更衣や入浴の際に両下肢の末端部を観察することの習慣化などを目的とした教育的な支援を行った。

さらに、既往の糖尿病の管理をし、再発を予防することを目的に、栄養士による栄養指導を実施した。栄養指導では、栄養士がこれまでの食生活の聴取を行い、食生活における課題を整理し、味付けの方法や適切な調理方法について指導を行った。また、本症例は服薬の重要性の理解が不十分で

あつため、薬剤師により薬剤の説明および服薬の重要性について指導を行った。これらの断端管理、栄養管理、服薬管理などの指導をご本人に対してだけでなく、同居している妻に対しても行うことで、退院後の継続した支援が定着することを目指した。

また、義足の選定については、医師を中心とした作成チームを発足し、義肢装具士、理学療法士を交えて繰り返しカンファレンスを実施した。それにより、症例のニーズである外出にも対応が可能な義足の作成を行った。

### 【結果】

日常生活が自立した。断端管理や疾病管理についての理解が得られ、指導した内容が習慣化した。既往の糖尿病のコントロールが可能となった（HbA1C：6.1%→4.7%）。また、ニーズであったドライブの獲得に向けた車の乗り降りや階段昇降、長距離の歩行も可能となった。

症例の疾病に対する医学的管理に加えて、ニーズに即した義足の選定およびチームアプローチによる包括的な支援を実施したことが、症例の生活の再建に寄与したものと考えられた。